

第 3 回（仮称）生物多様性藤沢戦略策定検討委員会 指摘と対応

	指摘	対応
資料 2	第 0 の影響加えるのは良い。都市住民（消費者）としているが、市内だけでなく、国内外へも影響していることを言うのが大切。	ご指摘事項をふまえ、考え方を生態系サービスの説明箇所に反映させました。
資料 3	事実をできるだけ数字でちゃんとおさえておく必要がある（藤沢の方が茅ヶ崎よりも観光客数は一ケタ多い、など）。	ご指摘のとおり、対応しました。
	農業では、水田面積の激減と施設栽培への転換が生物多様性への影響として非常に大きい。	戦略 P28 で整理を進めています。
	観光の課題「これらへの対策」とは具体的に何を指すのか。	内容の見直しを行い、文章の整合を図りました。
	多様性の視点を加えて課題を整理することが大切。何のためにこの課題整理をしているのかが今の書き方だと見えない。	ご指摘事項に留意し、内容の見直しを行いました。
	「消費者の流出」の影響は大きい。特に北部の人達は買い物などで海老名や綾瀬方面に出ることが多いと聞いている。	戦略 P26 で整理しました。
	「通過場所」の記述については、「江の島」や「片瀬海岸」などの観光・レジャースポットの知名度は高いが、それらが藤沢市にあるということの認識が一般的に低いのではないかと課題となるのではないかと。	ご指摘事項に留意します。
	第 2、第 3、+第 0 の影響（危機）との関連の視点で課題を整理することが必要。	戦略 P14, 17 で整理しました。
	認知度をどう上げるのか、どんな世代・主体に対して何をしたらよいか、現状をアンケートなどで把握することができるかとよい。インターネットなどを使う方法もある。	現在実施しているアンケート結果により、戦略の初期段階の状況を把握します。
	関西では最近、ヒアリ（ことによっては人命にもかかわる被害となる）が一般的にも非常に注目されている。藤沢でも今後、そのような外来生物への関心、話題が高まる可能性があるため、リスク対策として外来生物についてはしっかり考えておくことが大切。	外来生物については、戦略に位置づけ、施策を提示する予定です。
	南北での差など、ヒアリングで得られたことには大切なことが多いので、それらを丁寧に拾ってほしい。	ご指摘事項に留意します。
	教育分野では、国語、生活、家庭科など、理科以外でも教科横断で生物多様性を取り上げることができるという認識で考えるべき。 （葛飾北斎の絵図から当時の人と自然との関わり、自然の恵みを活かした暮らしを考える、“消費”の中で環境や自然に配慮した選択を考える、など）	「子ども」をテーマとしたグループワークの中で、様々な提案を頂きました。
子どもたちが身近に自然を感じられる場・施設として、博物館的な施設が必要ではないか。	「子ども」をテーマとしたグループワークの中で、様々な提案を頂きました。	

資料 4-1、 4-2	方針から先、どのように具体化・発展していくのかが見えない。だれが主体的に関わっていくのか。これまでの市の施策にはボランティアに頼るものが多いように思うが、ボランティアだけでは続かないのではないか。	本戦略で各主体の関わり方の方向性を示す予定です。
	「戦略」「戦術」の用語の使い方を統一する必要がある。	ご指摘のとおり、用語の統一を図ります。
	SWOT 分析について、強み・弱みとその下に整理した各課題との関係がわかるように示す必要がある。	課題の整理方法については、見直しを行いました。
	生物や自然の特徴と人の暮らしとの関係で課題を整理すると、なぜ取り組む必要があるのか、生物多様性のために何をすべきかがわかり易くなるのではないか。	ご指摘事項に留意し、戦略図書の全体構成を検討します。
	SWOT 分析の「機会」のところ、SDGs についての言及がほしい。	戦略 P8 に記載しました。
	ビオトープネットワーク基本計画でできたこと、できなかったことを踏まえて（評価して）戦略を考えることが大切。	戦略 P41-44 に記載しました。
	藤沢市の立地適正化計画にも沿って、防災や人口変動とリンクする内容整理が求められる。	緑の基本計画の改訂に併せ、検討します。
	一般の人の関わりが必要であることを、具体的裏付け示せるものは示して、できるだけ理解しやすい形で示すとよい。	戦略 P3 に示した上で、施策の方針の 5 番目に位置づけました。
	人口減少などは、脅威でもあるが機会ともとらえることができる。	ご指摘事項に留意します。
	横軸、縦軸掛け合わせた課題整理としたことが見て取れる表現方法とされたい。	ご指摘事項に留意し、課題の再整理を行いました。
資料 5	グループワークに委員は参加できるのか？	オブザーバとして参加できます。
	委員会でやっていることと内容が似ているが、グループワークではより具体的に「何ができる？」「何が必要？」を議論すべきではないか。	ご指摘事項に留意し、目的を明確にしたうえで、グループワークを実施しました。

以上